

子ども読書支援センターニュース No.194

2020. 7. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）はしばらくの間、中止させていただきます。

★「うちでおはなしかい」（7月）

うちでおはなし会をはじめよう！ちっちゃいおともだち、あつまれ！

当館でのおはなし会ができない間、ホームページ上でおはなし会のプログラムと関連する絵本の紹介をします。ご家庭でおはなし会をどうぞ。紹介した本は、「あかちゃん絵本」コーナーで展示しています。

http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/ohanashikai_web_202007

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『りんごごろごろ』 もぎあきこ/ぶん 森あさ子/え 世界文化ワンダークリエイト 2020.6 ¥900

「りんごごろごろ りんごごろごろ みかんかんかん みかんかんかん…」りんごにみかん、ピーマンにトマト、パイナップルにぶどう…。色々な果物や野菜が登場する手遊び絵本。おなじみの手遊び歌の「グーチョキパー」のメロディーなので、簡単に覚えやすい。巻末には楽譜と遊び方も掲載。カラフルで可愛い切り絵と、擬音のリズムが楽しい、親子で楽しめる絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『こどもたちはまっている』 荒井良二/著 亜紀書房 2020.6 ¥1600

「こどもたちはまっている ふねがとおのをまっている」金色の水平線、窓の外を通る船とそれを眺める子どもたちの後ろ姿。「こどもたちはまっている あめあがりをまっている なつをまっている」雨宿りをしながら雨あがりを待ち、ページをめくると、白い雲の浮かぶ青い空の下、海で遊ぶ子どもたち。詩的な文章と豊かな色彩の美しい絵。大人にも子どもにもおすすめの絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『おへそがえる・ごん1 ぼんこつやまのぼんたとごんたの巻』 赤羽末吉/さく・え 福音館書店 2020.4 ¥1400

押しボタンのようなおへそを押すと、口からぱくぱく雲を吐くかえるのごん。父をさがす男の子けんと出会い、一緒に旅することに。途中化け物に姿を変えた、たぬきやきつねとやりあったり、手のあるへびのどんに助けられたり、おへそがえるごんたちの旅は続く…。ごんのとびけたキャラクターがなんとも魅力的な創作長編物語絵本。赤羽末吉生誕110年を記念して復刊。全3巻。

『はかせのふしぎなプール』 中村至男/さく 福音館書店 2020.6 ¥900

ここは、博士の研究所。博士と助手くんは毎日研究にいそしんでいる。ある日博士は、入れたものが何でも大きくなるプールを發明。プールのすごさを助手くんに見せようと、色々なものをプールに入れてみる。何が大きくなっているのか、助手くんも一生懸命あてようとするが…。水面から少し見えている部分をヒントに何が沈んでいるのか想像してみよう。オチも楽しいユーモア絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『シェルパのボルパ エベレストにのぼる』 石川直樹/文 梨木羊/絵 岩波書店 2020.5 ¥1800

ボルパは、ヒマラヤのふもとで生まれ、毎日ヒマラヤを眺めて暮らしてきた。ボルパの夢は、ヒマラヤの山々に登ること。ある時、テンジンおじさんに声をかけられ、山登りのいろはを教わり、ようやく本格的にヒマラヤに登る準備をはじめること…。山岳民族であるシェルパの少年ボルパが、一人前の登山案内人になるために、その一歩をふみだす様子を描いた冒険絵本。

『とうちゃんはむしちゃんよか』 内田麟太郎/文 西村繁男/絵 光村教育図書 2020.5 ¥1300

東京弁をからかわれてから、あまりしゃべらんようになったハジメくん。そして母ちゃんが死んでからあんまりしゃべらんようになった俺の父ちゃん。二人とも元気が出さなね。父親と友達を心配するヒデ。大牟田の夏祭り「大蛇山」をきつかけに、みんなの気持ち動き出す…。「むしちゃんよか」はかつこいという意味の九州地方の方言。細かく描きこまれた祭の絵も味わい深い。

<絵本-小学校中学年から>

『みずをくむプリンセス』 スーザン・ヴァーデ/文 ピーター・H. レイノルズ/絵 さくまゆみこ/訳 さ・え・ら書房 2020.5 ¥1500

ジージーは、毎朝早く起きてつぼを頭にのせ、ずっとずっと遠くまで水をくみに行く。泥の混じった茶色い水でも、彼女たちが生活するための大事な水。アフリカの水くみの少女の一日を描く。安全な水を、もっと多くの人に届けたいと井戸を作る活動をしている、世界的に活躍する西アフリカ出身のモデルのジョージ。彼女の子どもの頃の体験がもとになったお話。

<読み物-小学校低学年から>

『雨の日は、いっしょに』 大久保雨咲/作 殿内真帆/絵 佼成出版社 2020.5 ¥1200

ぼくは、ハルくんの黄色い傘。今日は雨ふりだからうれしいんだ。かさ立てには、おりたたみ傘に透明なビニール傘、水玉傘などいっぱい。みんなかつこよくてあこがれちゃう。ところが、学校帰りに走ってこけちゃったハルくん、ぼくは地面にほうりだされ風の上で空へまいあがった。これはチャンス！ちがう人の傘になれるかもしれないぞ。傘の目線で書かれた楽しいお話。

<読み物-小学校中学年から>

『かみさまのベビーシッター』 廣嶋玲子/作 木村いこ/絵 理論社 2020.4 ¥1400

商店街の福引きで、特賞の「かみさまのたまご」を当てた幸介。このたまごがかえれば、中から神様が出てきて、我が家の守り神になってくれるという。幸介もお母さんも、自分の願いを叶えてもらおうと大張り切りだったが、お父さんだけは様子が違う。見ないようにして、まるで嫌っているかのようで…。神様から自分の強欲さに気づかせてもらおう、幸介の成長物語。

『ロウリーのいい子日記』 ジェフ・キニー/作 中井はるの/訳 ポプラ社 2020.4 ¥1200

ボクはロウリー・ジェファソン。一番の仲良しのグレッグがやってくるから、ボクも日記をつけることにした。名付けて『ロウリーのいい子日記』。いつもパパがボクのことをそう言うからね。だけどグレッグにこの日記を書いていることがばれちゃって、パクリだっておこられちゃった。人気シリーズ『グレッグのダメ日記』から飛び出した新シリーズ。

<読み物—小学校高学年から>

『虹いろ図書館のへびおとこ』 櫻井とりお/著 河出書房新社 2019.11 ¥1200

父の転勤で小6の2学期に転校したばかりの母は病気で入院中で、高校受験を控える姉と3人で暮らしていた。ある日突然いじめが始まり、ほのかは、毎日学校に行くふりをしながら、近くの図書館へ通う。そこで、顔面が半分緑色の司書のイヌガミさん、不登校の中学生スタビズと出会う。第1回氷室冴子青春文学賞大賞受賞作。著者は、現在も図書館勤務の司書。本書で作家デビュー。

<読み物—中学生から>

『無限の中心で』 まはら三桃/著 講談社 2020.6 ¥1400

高1の文系少女・とわが取材を依頼されたのは、数学研究部。そこでは、彼らが解けなかった問題が何者かによって解かれているという「木曜のミステリー」が繰り返されていた。その独特な筆跡に見覚えのあったとわは…。マニアックで個性的な3人の男子と妖艶な顧問教師に圧倒されつつも、自由で、美しいという数学を通して、関わりを避けていた不登校のいとこ・潤との交流が始まった。

『保健室経由、かぬやま本館。』 松素めぐり/著 おとないちあき/装画・挿画 講談社 2020.6 ¥1400

川崎にスタートした東京でのあたしの中学生生活。ところがある日、仲良しの人気者グループから拒絶されてしまい…。胃痛を起こして保健室に行ったあたしがいざなわれたのは、床下から続く謎めいた中学生専門の湯治場。必要な効能の湯につかり、友達と話すうちに…。疲れた時はしっかり休息することが必要だというメッセージがストレートに届く。第60回講談社児童文学新人賞受賞作品。

『わたしの全てのわたしたち』 サラ・クロッサン/著 最果タヒ、金原瑞人/訳 ハーパーコリンズ・ジャパン 2020.6 ¥1700

グレースとティッピーは、腰から下がつながった結合双生児。顔はそっくりでも、性格は全然違う。引っ込み思案のグレースが、16歳で初めての学校生活の戸惑い、友情、恋など切ない気持ちを素直な言葉で表現。家族の愛情、危険な分離手術なしにはこれ以上生きられないと知った二人の決断、相手への思いが胸を打つ。詩人・最果タヒと翻訳家・金原瑞人の共訳。カーネギー賞受賞作品。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『わたしがかわるみらいもかわる SDGsはじめのいっぽ』 原琴乃/作 MAKOオケスタジオ/絵 山田基靖/監修 汐文社 2020.5 ¥1800

わたしたちのちきゅうでなにがおきているのかな？わたしたちはどうしたらよいの？わたしたちがおおきくなる2030ねんまでのもくひょう「SDGs」をせかいのみんなできめたんだ。外務省で「SDGs」推進を担当してきた作者により、子どもが幼い時から「SDGs」の基本的な考え方を理解し、身近な暮らしの中で行動していくことを目指して作られた絵本。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『ぼくらしく、おどる 義足ダンサー大前光市、夢への挑戦』 大前光市/著 今井ヨージ/絵 学研プラス 2020.5 ¥1400

高校から演劇を始め、バレエやダンス、声楽やピアノを習い、ミュージカルスターを夢見ていた光市。思わぬ交通事故で左足の膝から下を切断することに。そこから、それまでの夢をあきらめることなく、様々な義足を使い分け、新しいスタイルの舞台に挑戦し、リオパラリンピックの閉会式など、世界の舞台上で活躍する義足ダンサーになるまでの、努力を描いたノンフィクション。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『摂食障害オバケのササヤキ』 雨こんこん/作 池田蔵人/絵 鈴木真理/監修 少年写真新聞社 2020.5 ¥1800

努力の結果が数字で見えて、みんなにすごいと言われること。それが「やせること」。摂食障害オバケの「やせたい」というササヤキが聞こえたら、その思いの底には実は違う悩みが隠されている…。摂食障害の当事者であった著者が、拒食症の「食べられない罰」を絵とともに解き明かす。子どもの拒食症を正しく理解したい大人も読んでおきたい1冊。

<ノンフィクション—中学生から>

『繊細すぎてしんどいあなたへ HSP相談室』 串崎真志/著 岩波書店 2020.5 ¥800

怒っている人が怖い、教室に居づらい、匂いや音に敏感など生きづらさを感じている人へ、自身もHSPだという臨床心理学者がアドバイス。繊細さを「多感力」という長所としてとらえ、傷つきやすさを最小限に抑え、生きる力として生かす方法を具体的に教える。当事者だけでなく、身近な繊細な人を理解する助けにもなる。著者は山口県生まれ。岩波ジュニア新書。

<ノンフィクション—中学生から>

『部活魂!この文化部がすごい』 読売中高生新聞編集室/著 筑摩書房 2020.6 ¥880

頂点を目指す、富士高「百人一首部」、空中分解から立ち直った逗子開成高「演劇部」、珍しい文化部の花巻農業高「鹿踊り部」、アツイ理系の長浜高「水族館部」など、全国のバラエティーに富んだ文化系部活を紹介。普通の中高校生活を主役に、どこの学校にもある部活の熱いドラマを、文化部にスポットを当て小説風に描く。『読売中高生新聞』連載に加筆修正。ちくまプリマー新書

『はずれ者が進化をつくる 生き物をめぐる個性の秘密』 稲垣栄洋/著 筑摩書房 2020.6 ¥800

個性は生物が生き残るために作り出した戦略。新たな環境の変化に適合する「はずれ者」や戦いの敗者が進化を作り出していった。「個性」とは？「ふつう」とは？「強さ」や「らしさ」とは？「大切なもの」とは？植物学者が、生き物たちの生存戦略を紹介しながら、「生きる」とは何かをわかりやすく具体的に語る。生物を通して人間の生き方を考えさせる一冊。ちくまプリマー新書。

<研究書>

『絵本はもっと面白くなる! 決め手となる読み方、選び方』 早川裕/著 牧野出版 2020.5 ¥1200

クレヨンハウスの絵本売り場から出発し、絵本の読み聞かせや絵本講座、絵本の出版までを手掛けるようになった著者が、自身の経験や絵本についての考えを語る。また、様々な視点からチェックしておきたい絵本も厳選して紹介。絵本と絵話を区別して考えることで絵本の可能性は飛躍的に広がると訴え、読み聞かせボランティア、教育者などへ新しい絵本の見方を示す。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。